

第 7 回東学農民軍の歴史を訪ねる旅（下）

山根 俊郎

★羅州の客舎・西門

10/18（木）羅州（ナジュ）で昼食をおいしく食べた。羅州はずいぶん鄙びた感じがする。食堂の前の客舎（錦城館・クムソクカン）に集合した。広い敷地内には樹齢 350 年のイチョウの木が 1 本あった。羅州の郷土史研究家 5 名も来られた。

1894 年陽暦 11 月 7 日に後備第 19 大隊（四国の後備役兵士で構成）がソウル龍山から中隊ごとに東路、中路、西路の 3 ケコースで東学農民軍を‘鎮圧’して南下して来て、再集結してこの建物に駐屯した、と朴孟洙先生のお話を聴いてから徒歩で 10 分、羅州邑城 西門（去年復元）に着いた。この門は農民軍が 7 度攻撃したが陥落できなかった。全羅道の牧使が日本軍に援軍要請をした。後備第 19 大隊は、翌年 1895 年 2 月末にソウルに帰還した。これらの事実は、1997 年から朴孟洙先生と北海道大学の井上勝生教授が東京の外交史料館や防衛研究所図書館などで後備第 19 大隊の大隊長である南小四郎少佐（1842-1921）の行方を調査した。ようやく 2008 年 3 月に孫の南三郎氏から井上教授に会うと連絡があった。東学農民軍関係の文書を多数（数十点）保有していた。その後、南文書は 2010 年 3 月に山口県立文書館に寄贈された。その公開まで約 15 年という長い年月を要した。そして、韓国側が借り受けて東学農民革命記念館で 2012 年 4 月 16 日から 12 月末まで「東学農民革命の真実を探す」というテーマで里帰り特別展示となったのである。幸いなことに今回、10/19 東学農民革命記念館を訪れると玄関の左側の小部屋で貴重な文書が公開されていた。写真資料集も 1 冊貰い、私は大満足である。その本に朴孟洙先生が経緯を論文で書かれている。

★犠牲になった東学農民の追悼儀式

実は、井上教授は日本軍の一兵士が記録した詳細な日記（2m の巻物）も入手した。そこには驚くべき虐殺の内容が記されている。公開すれば外交問題にも発展する可能性があるため、現在慎重に調査中、とのこと。朴孟洙先生から「捕虜にされた約 600 名の東学農民軍の兵士が、現在の羅州初等学校の敷地で処刑されたようだ」と説明された。その初等学校にバスで移動した。開校 100 周年を越す古い学校

である。校長さんが挨拶に来られ、校庭の片隅で天道教の追悼儀式が執り行われた。長年遠洋漁業の船長をして日本語が得意な好々爺の朴源出（ソウル）さんが主宰された。聖水をコンギパップの真鍮の容器に満たして 16 字の呪文（漢字）を唱えて、白髪のひげの詩人の金聖淳（慶北 金泉）さん、元牧師でパンソリを嗜み「平和」の書芸の沈相鳳（全北 任實）さん、李住炯（忠北 永同）さんたち天道教の方と中塚先生が聖水を回し飲み、全員で黙とうして犠牲になられた東学農民軍の兵士の冥福を祈った。



その後、東学農民革命発祥地である茂長（マジャン）起包地を見学して全州に着き、夕食は名物のビビンパップを食べた。宿泊はコアリベラホテルであった。

★記念碑などを見学

10月19日（金）朝食は、韓屋マウルの全州豆もやし（コンナムル）クッパの有名店‘ウェンイチプ’。朝食後に天道教の方々は帰られた。午前中に古阜（コブ）の東学革命謀議塔（沙鉢通文謀議塔）、無名東学農民軍慰霊塔、萬石沢、そして全瑋準（チョン・ボジョ）ン）古宅を見学。ここで全瑋準は書堂（寺子屋）を開いていた。原型より少し大きく復元された。



昼食は、北井邑市の山中で朝鮮時代の恰好で営業している‘宋参奉 朝鮮洞内’の豆腐キノコ鍋は絶品！ダシは紅蛤（ホンパ＝ムール貝）。メニューを見ると4万ウォンと高い。（普通昼食は2万ウォン程度）牛や鶏がいて、従業員の衣装も韓服で昔の雰囲気を楽しめる。民泊も営業。午後は黄土峙（ヒョントヒョン）戦績地、東学農民革命記念館、白山（ペクサン）城を巡った。夕食は、全州韓屋マウルの「茶門」（チャム）で韓日市民東学紀行 全州交流会。ハンサルリム（消費生活組合）の全羅北道の生産者と役員9名。日本側からお土産の大攻勢。韓国側のお土産は最近復元された朝鮮時代の三大焼酎 井邑（チョンウプ）の竹瀝膏（チュクリョコ・ネット）で調べると4万ウォン。朴孟洙先生から舞鶴の余江さんと私（むくげの会）に1本ずつ戴いた。その後、有志でマッコリチブに行った。飛び入りでチャンゴやサクソフォンの演奏がありおもしろい。私は役員のチャン・ヘギョン（女）さんとその娘（小3年）の相手をして「日本のおいしい食べ物は？」→「しゃぶしゃぶ」。「日本の楽器は？」→「三味線」と超きつい質問にタジタジ。

10月20日（土）日本軍の景福宮占拠に反対する第2次蜂起で東学農民軍が集結した参礼（チャム）の東学農民公園に着くと小西さんと梁千賀子さん

が待っていてくれ、孤立無援の私はうれしかった。

★大屯山（テトサン）戦闘地

1894年11月上旬に公州（コンジュ）の牛禁峠（ウグムチ）で敗北した東学農民軍50名がこの山（海拔798m）頂上付近で籠城したが、1895年陽暦2月18日日本軍1分隊と朝鮮政府軍の奇襲を受け25名全員が戦死した。登山客でゴった返していたが、急こう配の道を慰霊塔まで必死で‘登山’した。



★連山（ヨンサン）戦闘地

1894年12月10日に日本軍第3中隊と東学農民軍の間で大きな戦闘があり、日本軍が1名戦死した。丁度、なつめ祭りで街に入れなかった。

★牛禁峠（ウグムチ）戦闘地

第2次蜂起の農民軍がソウルを目指したが日本軍に阻まれた忠清道公州の牛禁峠（ウグムチ）の激戦地。1万名の東学農民軍が日本軍の新型小銃に屈して2週間50回の戦闘でも遂に丘を越えられずに敗退した。500名しか生き残らなかった。



朴孟洙先生の研究の深さには感服した！（終り）